

令和3年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立紀北支援学校

学校長名：児玉 修造

めざす学校像 育てたい生徒像

一人一人の障害・発達・生活の実態を正しくとらえるとともに、教育的ニーズを把握し、すべての子供のもつ発達の可能性を最大限に伸ばし、子供を中心とし、将来を見据えた育を創造する学校。
 障害による学習上または生活上の困難を改善・克服し、社会の一員としての自立をめざし、「やさしく 明るく たくましく」より豊かに生きていこうとする子供。

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 個に応じた分かりやすい授業の推進（授業づくり）に取り組む。
	2 児童生徒の健康の増進及び学校安全の徹底を図る。
	3 キャリア教育の推進と職業教育の充実を図る。
	4 センター的機能を発揮することで開かれた学校づくりを推進する。

中期的な目標

本校は、令和5年（2023）年に学校創立50周年を迎える。2年前より、校舎全面改築に向けての協議が始まり、昨年度は基本設計を終え、今年度は実施設計に向けて準備する段階として進んできている。
 学習指導要領が全面实施されていく中、授業づくり(授業改善)を学習内容表の活用、年間計画・単元計画表の作成をとおして推進する。キャリア教育の視点で小学部から中学部、高等部一貫した「生きる力」を培う取組を行う。また、センター的機能をさらに充実させることで、外部機関との連携の下で子どもたちと地域をつなぎ、特別支援教育の推進を図る。

学校評価の結果と改善方策の公表の方法

職員に対しては、職員及び保護者（育成会役員分）の分析について、職員会議にて共有する。保護者には、役員会の中で、保護者の結果についての分析を公表し、改善策に関する意見等をいただく。学校運営協議会においても、改善点等のご意見をいただく。ホームページにおいても公表する。

達成度	A	十分に達成した。 (80%以上)
	B	概ね達成した。 (60%以上)
	C	あまり十分でない。 (40%以上)
	D	不十分である。 (40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末（3月）に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価					学校関係者評価	
重点目標					令和4年2月25日 実施	
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善方策
1	新学習指導要領に基づきPDCAサイクルを大切に授業づくり・授業改善を軸にカリキュラム・マネジメントに取り組んでいる。今年度は、各学部四つの柱の観点と学習内容表の活用を進めながら授業改善にも取り組む。	・学校全体として教育目標を達成するための教育課程編成ができたか。 ・主体的で対話的で深い学びが具現化されているか。 ・PDCAサイクルが機能しているか。	学習内容表・単元計画表の活用及び自立活動の研修の充実による授業力の向上をめざす。 授業研を実施し、互いの協議及び外部講師による指導を通して、授業づくりに資する。 学校目標や学びの連続性を踏まえ、キャリア教育の視点から教育課程を見直す。	分掌部のリーダーシップや外部講師の指導のもと、職員全員の力量向上を図る。 10回以上の授業研実施。うち5回は外部講師を招いて、授業力向上を図る。	A	・授業研修を展開することで学習内容表や単元計画表を使った授業づくりの評価や、見直しを図る。 ・若手教員の育成を中心に全体の授業力を高めるため、研修の充実を図る。自立活動の具体的な取組とキャリア教育の実践を両軸として教育課程や授業改善を進める。
2	分掌部や各種委員会を中心に、健康教育や医療的ケア等、また学校安全に関する取組を整えてきている。感染症対策や防災教育等、職員の危機管理意識の向上及び外部機関との連携を図りながら子供の健康・安全に関する取組を推進する。	・感染症対策や健康安全に関する取組を日常的に行っているか。 ・ヒヤリハット報告等、互いの意識向上により事故防止に繋がったか。 ・防災に関する備えを整えることができたか。	職員の互いの連携のもと、子どもたちの健康安全を確保できる環境作りと取組を進める。 ヒヤリハット報告等から、日常的な人権意識や危機管理意識を高める。 学校全体で、保護者や関係機関、地域との連携を図りつつ、防災に関する課題に取り組む。	各種委員会の定期的な開催及び外部機関との連携による取組の検証。 報告の日常化と事例検証による環境整備と人権や危機管理の意識向上。 防災教育の充実。防災に関する協議の推進及び保護者や地域への啓発。	B	・感染症対策の徹底や、児童生徒の心身の健康や安全への意識を高く持つ。ヒヤリハット事例は、日常的に共有していくことを職員の中に定着させる必要がある。防災の取組では、登下校中や在宅中の被災を視野に入れ、安否確認の方法等、地域や関係機関と連携しながら進める。
3	学部別に子供の実態に応じたキャリア教育の推進に取り組んできている。今年度は、キャリア教育の全体計画を見直ししながら、さらなるキャリア教育の意識向上を図る。	・学びの連続性を踏まえ学部別にキャリア教育への共通認識を持てたか。 ・職員や保護者への研修の機会を通して啓発できたか。	卒業後の生活を見通した上で全体計画を見直し、学部別の取組の推進と検証を行う。 卒業後の生活についての研修や施設見学の取組を通して、意識向上を図る。	分掌部や保護者との連携のもと、推進を図る。 職員研修、保護者研修ともに、年間1回以上実施する。	A	・キャリア教育の全体計画を活用した取組を進め、卒業後の生活に見直しを持てるようにする。研修や協議を通して各学部でのキャリア教育の取組を充実させ、教職員や保護者と共有する。
4	コミュニティスクールの取組や地域とのつながりを校舎改築の議論と重ね、「新しい紀北支援学校」に向けて取組を進める。社会との連携・協働をもとに、センター的機能を十分に発揮することで、「開かれた学校づくり」を推進する。	・地域や外部機関との連携により、学部の取組を推進できたか。 ・地域諸学校や教育委員会との連携を進められたか。 ・地域との連携等を軸に実施設計に向け準備できたか。	外部の方による授業協力要請、外部の方との取組についての協議を行い、推進を図る。 地域のニーズを把握しつつ、地域向けに校外での研修会や教育相談の機会を拡大する。 専門部での協議から学校全体として「開かれた学校」を意識した校舎改築を進める。	地域と連携した授業づくりを行うとともに学校運営協議会を年間4回実施する。 研修会を年間3回以上行うとともに、中学校・高校の教育相談の件数を増やす。 十分な議論を行い具体的な教育活動を視野に入れ実施設計に向け準備をする。	B	・地域との連携を進め、生徒の主体的な活動を広げる。センター的機能の取組では、さらに高等学校との交流を進め可能な教育相談活動の方法を探る。 ・実施設計に備えた準備を行い、県教育委員会と連携し、具体的な所室の配置や所室内の設備等について協議を進める。

学校関係者からの意見・要望・評価等

6月の第1回学校運営協議会において、学校経営計画書として、具体的な取組や評価の指標を提示し、本校の重点目標達成に向けた提案を行った。
 12月の第2回学校運営協議会では、高等部作業班のミニマルシェを開催し、生徒からの報告と協議委員会との質疑応答を実施した。各班がアイデア出し合って質の良い商品になってきていると評価をもらった。小学校へ教材としてメダカを提供した取組は今年度の成果の一つだが、センター的機能として高等学校からの要請が無いことを真摯に受けとめ、高等学校に寄り添いながら連携を進める手立てが必要になる。
 2月の学校運営協議会は感染症拡大防止のため書面決裁で実施し、作業学習や地域との取組、内部評価等について各委員からの意見を得た。児童生徒や職員と各委員との交流をさらに深められるように工夫していきたい。
 2月に学校評価を育成会(PTA)役員にも実施し、41名(89%)から回答を得た。
 2年連続、コロナ禍で運動会等の行事だけでなく授業参観等も中止になり、学校の教育活動を目にする機会がなく、普段の連絡帳だけでは成長を伝えることが難しく、評価を下げる項目が多かった。体験活動を重要視する特別支援学校にあって、どのような取組でその授業や行事の保障をしていくのか、保護者へ情報提供していくのか、ICTの利活用も含めて検討し取り組んでいく必要がある。